

## 平成25年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A1	取組 名称	現代版『京童』へのアプローチ —「国際京都学」研究における京都府立総合資料館所蔵古典籍活用の可能性—
研究代表者:	文学部 (研究科)		教授: 藤原英城
研究担当者:	京都府立大学 (藤原英城、赤瀬信吾、山崎福之、母利司朗、安達敬子、小松謙、林香奈、岸本恵実、鳴海伸一、東昇、上杉和央、藤本仁文、野口祐子、ラリー・ウォーカー、大谷直輝、長谷川雅世、張凌志) 外部分担者・協力者 (井口和起氏、松田万智子氏、若林正博氏、大瀧徹也氏ほか)		
主な連携機関 (所在市町村、機関 (部署) 名)	京都府立総合資料館		
<b>【研究活動の要約】</b>			
<b>『京童』による京都の国際発信</b> 京都府立総合資料館所蔵の『京童』 (中川喜雲著 明暦4 (1658) 年刊) は、出版された最初の京都名所案内記で、その後に続々と登場してくる京都ガイドブックの出発点となる記念碑的な作品です。 本研究では、『京童』の内容を国内のみならず、海外の人々にも知っていただくことを主眼とし、江戸時代に著された古典としての『京童』の文章に注釈や現代語訳を施すとともに、英語訳・中国語訳も試みました。 さらに『京童』の記事に関して、歴史学からの考察やフィールドワークを通じての現代との比較調査なども行いました。			
<b>【研究活動の成果】</b>			
<b>「国際京都学」と古典籍研究の融合</b> 古典籍『京童』についての新たな知見がもたらされることは言うまでもありませんが、現代版『京童』としての新たなフォーマット (本文注釈と外国語による翻訳、および歴史的・フィールドワーク的な調査など) を提案することができました。 古典籍に記された過去の姿を通じて、現在の京都のあり方やその成り立ちなどについての関心を深め、これからのあるべき京都の未来や「国際京都学」研究についての「考えるヒント」ともなればと期待します。			
<b>【研究成果の還元】</b>			
(開催した発表会・成果報告会等の開催日、場所、参加者 等を御記入ください) H26/3/15 京都府立大学大学会館 関係者等約 130 名 国際京都学シンポジウム「名所の今昔おもしろ案内 —現代版『京童』へのアプローチ」(文学部主催) (報告書、論文等のタイトル、希望者への配付/閲覧の有無 等を御記入ください) 「現代版『京童』へのアプローチ —「国際京都学」研究における京都府立総合資料館所蔵古典籍活用の可能性—」(平成二十五年度京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 研究成果報告書) 府大図書館、府立総合資料館などで閲覧可			
<b>【お問い合わせ先】</b> 文学部 (研究科) 藤原研究室 教授 藤原英城 Tel: 075-703-5214 E-mail: h-fujiwara@kpu.ac.jp			

参考（イメージ図、活動写真等）

府大ニュース（3月27日）より

## 国際京都学シンポジウム「名所の今昔 おもしろ案内 —現代版『京童』へのアプローチ—」が開催されました

[2014年3月27日]

### 開催報告

3月15日午後1時30分より、京都府立大学学生会館2F多目的ホールにおいて、文学部主催による国際京都学シンポジウム「名所の今昔 おもしろ案内 —現代版『京童』へのアプローチ—」が開催されました。

当日は、120名余りのご来聴者があり、補助席を追加するほどの盛況でした。

### シンポの内容

総合司会 東昇（京都府立大・准教授〔歴史学科〕）

〔挨拶・主旨説明〕

野口祐子文学部長による開会挨拶ならびに国際京都学への文学部としての取り組みの様子が紹介され、続いて本シンポジウムの研究母体となったACTR「現代版『京童』へのアプローチ —「国際京都学」研究における京都府立総合資料館所蔵古典籍活用の可能性—」の研究概要について研究代表者の藤原英城教授が説明しました。

〔講演〕

#### 1. 『京童』へようこそ —作者中川喜雲をめぐって—

藤原英城（京都府立大・教授〔日本・中国文学科〕）

・『京童』から窺える物語としてのフィクションのあり方と作者の自伝的要素の関係などについて紹介しました。

#### 2. 英訳でわかる地名の妙

野口祐子（京都府立大・教授〔欧米言語文化学科〕）

・『京童』を英訳する際の苦心に始まり、特に地名表記の難しさについて、英訳された日本の小説や英語の京都ガイドブックから道路標識まで具体例を挙げて解説しました。

### 3. 名所にどきっ！ —ARを使った文化遺産の活用—

上杉和央(京都府立大・准教授[歴史学科])

・ARの操作を実演し、ARからWebサイトへ容易に誘導されるシステムにより、各人の興味に応じた情報提供の可能性が示されました。

### 4. 洛中洛外デジタル遊覧 —時空を超えた名所図会の楽しみ方—

大瀧徹也(京都府立総合資料館・文献課)

・京都府立大学所蔵の吉田初三郎画「京都名所大鳥瞰図」をデジタル化した「洛中洛外デジタル遊覧」の操作・実演により、身近な名所をスクリーン上で案内しました。

〔挨拶〕

井口和起京都府立総合資料館顧問による閉会の挨拶ならびに国際京都学への資料館としての抱負などが述べられました。

ハイテク(デジタル)・ローテク(アナログ)織り交ぜながらのシンポジウムでしたが、ご来聴の皆様には満足いただけたご様子で何よりでした。



会場風景